

第5回 「混雑 vs 嫁」帰省したくないホントの理由はどっち？

日本の風物詩、帰省。お盆の時期になると、みなさんも一度は体験したことがあるのではないのでしょうか。

久々のふるさとを満喫できる帰省も、楽しいことばかりではないのが現実。道路や公共交通機関の混雑、割高な交通費、そして中にはお姑さんやお舅さんに会うのはちょっと・・・、といった人もいるでしょう。実際、観光庁が2010年8月に実施した「ピーク調査」の結果をみると、「帰省はできればしたくないので、あまりしていない」という人が12.7%、帰省はできればしたくないが、できるだけするように心がけている」という人が27.5%います。すなわち、約4割の人が帰省に対してネガティブな印象を持っているのです。

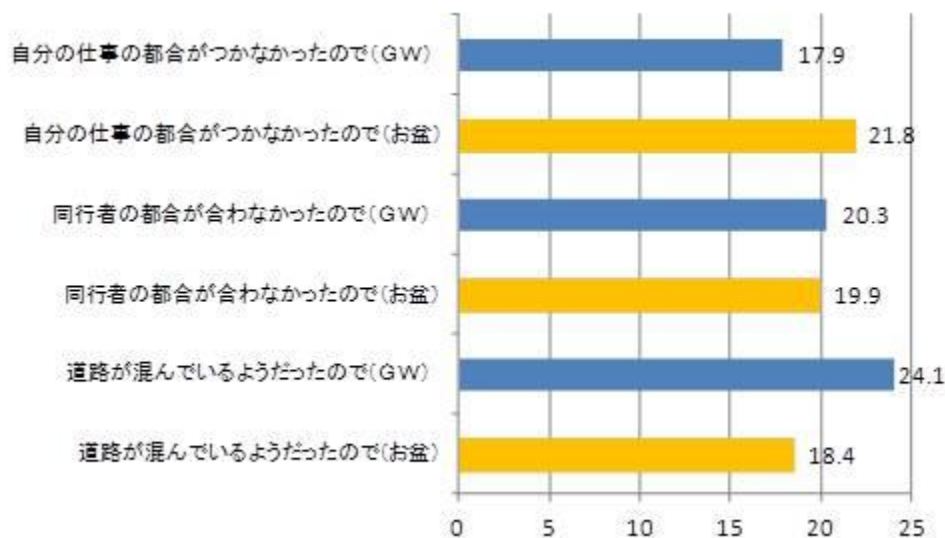
では、なぜこれらの人は帰省をしたくないのでしょうか。

その理由としてダントツトップなのが「道路が混雑しているから」で、帰省したくない人のうち実に37.4%がそのように回答しています。お盆の時期の高速道路の渋滞はテレビでもおなじみの光景ですが、やはりそれだけ帰省への負の影響が大きいことが伺えます。

実際、お盆期間中に「国内旅行をしなかった理由」として道路混雑を挙げた人は18.4%に上ります。これは、物理的に行けない理由である「自分の都合がつかなかったので」(21.8%)、「同行者の都合が合わなかったので」(19.9%)について上位三番目の理由となっています。

この混雑、実はゴールデンウィーク時には、更に旅行の阻害要因となっているのです。2010年5月に実施されたピーク調査結果によると、「国内宿泊旅行をしなかった」理由として道路混雑を挙げた人はなんと24.1%にも上ります。これは、「自分の仕事の都合がつかなかったので」(17.9%)、「同行者の都合が合わなかったので」(20.3%)を上回る数値です。

すなわち、ゴールデンウィーク時には、この混雑の方が物理的に行けない理由よりも国内宿泊旅行の阻害要因になっているのです。



事実、宿泊施設の稼働率をみると、ゴールデンウィークは特定の日に必要な需要が集中し繁閑が激しいのに対し、お盆の時期は比較的高位で安定した需要が生じていることがわかります。このゴールデンウィークにおける需要集中期に生じる特に激しい混雑が、お盆期間以上に旅行を妨げる大きな要因になっていることが予想されます。

因みに、帰省に対してネガティブな人が挙げた二番目の理由と三番目の理由はなんだと思いですか？


答えはそれぞれ「自分の親や親戚に会うのがいやだから」(29.0%)、「配偶者の親や親戚に会うのがいやだから」(25.9%)になります。

少し寂しい気もしますが、道路の混雑ほどいやな理由となっていないところが救いでしょうか。

でも、ご安心を。生活者全体レベルでは、53.9%の人が「帰省をするのが楽しみだ」と回答しています。道路や観光地が混雑していても、お姑さんとの会話がちょっと不安でもまだまだ帰省は大半の生活者が楽しみにしているイベントなのです。ピーク調査は、ゴールデンウィークやお盆といった旅行行動のピーク時の実態を明らかにする調査ですが、客観的なファクトデータだけでなく、このような生活者の意識調査も行っております。政策立案や経営・マーケティングに、ぜひ、お役に立てていただければ幸いです。

今回のコラムで使用した統計は...「観光産業におけるピーク時期の観光客の動向把握に関する調査」

【執筆者】 観光庁 観光経済担当参事官付 観光企画調整官 神山裕之

 このページに関するお問い合わせ

観光庁観光経済担当参事官室

代表 03-5253-8111(内線 27-213)